

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立啓成小学校（鳥取県）

## 【取組内容④】 Googleスライドを活用した指導案検討、作成

7月24・25日夏季校内研修について

研究主題  
いきいきと思わせ、ともに高め合う子どもの育成  
～ICT活用で創る新しい授業・学校のかたち～

以下の流れを参考に、授業づくりを進めていって下さい。

- ①単元、授業場面の設定をする。(学年、教科、単元・題材名、第○時・・・)
- ②単元、または本時でどのような力をつけることができれば良いのか検討する。(ゴールイメージを持つ。)
- ③本時では、どのような教科の見方・考え方を大切にしたいかについて検討する。(前回の校内研修で実施して頂いた、各教科のポイントを参考に)
- ④学年部ごとに児童の実態について話し合う。(学習面・生活面等)  
・良いところ  
・課題
- ⑤ICT活用方法を検討する。(つきたい力に向けて、効果的に活用することを目指す。)

以下の授業づくりの視点を意識してください。

授業づくりの視点  
☆各教科の見方考え方を働かせることができたか。  
☆ICTは効果的に活用されていたか。  
☆個別最適な学び、協働的な学びは実現されたか。

②は教材観、③は児童観、④～⑤は指導観につながる部分であると考えます。⑤については授業づくりをしていく中でどんどん変わっていく部分かと思えます。今日は決まっていなくても構いません。

持参物(必要に応じて)  
・指導要領解説  
・教科書(授業者の先生はコピーをとるとお願いします。)  
・タロムブック

高学年部

- ①単元、授業場面の設定をする。(学年、教科、単元・題材名、第○時・・・)  
5年、国語、物語の面白さを解説しよう・注文の多い料理店、第時
- ②単元、本時でどのような力をつけることができれば良いのか検討する。(ゴールイメージを持つ。)  
人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりし、見つけたおもしろさを解説する文章を書いた本のポップを作る事ができる。
- ③本時では、どのような教科の見方・考え方を大切にしたいかについて検討する。  
表現の工夫(反復、比喩、色彩を使った表現、擬声語・擬態語、物語の構成、物語に引き込む工夫など)を見つけ、それらが物語にどのような効果をもたらしているかを考えること。
- ④学年部ごとに児童の実態について話し合う。(学習面・生活面等)  
自分の思いを表現するのが難しい。
- ⑤ICT活用方法を検討する。(つきたい力に向けて、効果的に活用することを目指す。)  
スライドでポップを作成。  
できたポップをタブレットにアップして、アドバイスをし合ったりよいところを共有したりする。
- ⑥その他  
毎時間の最後に、10分で自分のおもしろかった表現を友達と共有する。  
自分と友達との捉え方の違いをまたおもしろいと感じる児童もいるかも・・・審議が大切。  
ポップの見本を作成して教室に置いておく。  
スライドで個人配布して作る。

R5情報共有用 > 夏季校内研修 > 見方・考え方・

種類 > ユーザー > 最終更新 >

ファイル

- 国語見方考え方に...
- 算数見方考え方に...  
算数授業づくりのポイント  
2022.7.27啓成小学校内研  
1 算数科の特性について  
2 算数科のゴールイメージとは  
3 数学的な見方・考え方を働かせ
- 各教科見方考え方...

第4学年1組 算数科学習指導案

日時 令和5年11月30日(木) 5校時

指導者

- 1 単元名 図を使って考えよう
- 2 単元について

**単元観**

- ・なぜこの単元を扱うのか。
- ・本単元を通して、児童はどのような力を身につけることができるのか。

について、基本的には学習指導要領を根拠に説明する。

本学級の児童25名は、算数の学習に対して積極的に学習に向かう児童がいる反面、つまづいた時に諦めがちになる児童がいる。計算問題などのスキルの学習には前回のめりに学習に向かう児童が多いが、図を活用したり、説明したりといった思考を伴う学習に対して抵抗を感じたり逃避がちな児童もいる。これまで3年時ではわからない数を□として置き、図を使って計算の仕方を考えたり、図を使うことによって具体的な場面を解決することの良さを知ったりすることなどを学んできた。しかし、「順に」考える思考法はできていても、目的から逆向きに「順にもとめて」考える思考法をイメージすることは難しいと想定される。

**指導観**

単元観・児童観をもとに、その単元・題材で何を指導するのか具体的に書く。

- ・指導の重点、目標等。
- ・学習の流れに沿った、指導目標に対する中心となる手立てや指導の工夫、学習形態や教師の支援等。

授業づくりの以下の3つの視点に関わる工夫があれば、ここに書く。

- ・各教科の見方・考え方を働かせる。

ICTを活用せずに指導案検討や作成をしていた頃は、全員集まって授業づくりの流れを確認したり、作業を行ったりしていた。

働き方改革の業務時間削減の視点から、Googleスライドの共同編集機能を用いて、必要に応じてドライブ内に保存してあるデータを取り出したり、部員が集まらなくても個々が作成を行うことができるようにしたりして、円滑な指導案検討、作成を行うことができた。

指導案検討、作成に要する時間は以前の3分の2程度になった。